

算数科学習指導案

指導者 宇恵 孝子

1. 日 時 平成21年9月16日(水) 第5限

2. 場 所 3・4年教室

3. 学 年 3年生(男子1名 計1名)
4年生(男子1名 女子3名 計4名) 計5名

第3学年

4. 単元名 「間の数」

5. 単元目標

順序数と集合数の組み合わせられた問題やものの数と間の数の関係に着目して解決できる。

〔関心・意欲・態度〕図に表すことのよさに気づき、問題解決の際に進んで用いようとする。

〔数学的な考え方〕 順序数と集合数の組み合わせられた問題や植木算の問題について、図をもとにして考えることができる。

〔表現・処理〕 順序数と集合数の組み合わせられた問題や植木算の問題について、その関係を図に表すことができる。

〔知識・理解〕 間の数に着目すればよいことを理解する。

6. 指導にあたって

3年生は、1人学級のため、黒板に掲示した学習メニューに沿って自分で学習を進める形を取っている。言語力が十分でないため、学習メニューに書かれた内容や課題の意味を理解するのに時間がかかるときもあるが、毎時間まじめに学習に取り組んでいる。

文章題では、自分なりに絵や図をかいて考えようとするが、問題文をきちんと読めず自分の思いこみが入った図になってしまうことがある。また、問題文に出てきた数字を安易に組み合わせで立式してしまうこともあるので、分かっていることや聞かれていることなど演算を決定する決め手となるような大事な言葉に線を引き、求めることは何かをはっきりさせて考えるようにしてきた。なぜかけ算やわり算にしたのかなど考え方を言葉で表すのも苦手なので、自分が考えた順に「まず」「次に」などの順序を表す言葉を使いながら

書き表すように支援している。

発表の場面では、友達と聞き合い話し合うことができないので、教師に向けて発表することが多い。「すう太くん」というキャラクターを登場させ、できるだけ質問をしたり違う考えを出したりして、児童が考える場面を取るようにしている。また、授業の終わりに書く算数日記を4年生と交流して、1時間の頑張りを振り返り認め合う場を作っている。ときには、4年生に発表を聞いてもらったり意見をもらったりして、児童の励みになるような機会も増やしていきたい。

児童は、これまでに、順番を知ってその前後の人数を求めたり、前後の人数を知って全体の人数を求める経験をしている。本単元では、今までの経験をもとに、1列に並んだ2人の位置から間の人数を求める順序数の問題と、1列に並んだものの数とその間の関係から両端の間の長さを求める植木算の問題を学習する。これらの問題は、日常よく出合う場面であるが、念頭操作だけで解こうとすると意外とつまづきやすい。

特に、本時の植木算では、問題文の中に木と木の間の数が書かれていないので、見た目の数字だけにとらわれ、文章題の題意をしっかりと捉えないまま問題を解いてしまいがちである。ここでは、間の数が問題となるため、初めから念頭で予想することは難しいので、図をかいて（木の数）と（間の数）の関係を見つける活動を大切にしたい。ただし、題意を捉えやすくするために入れる挿し絵は、（木の数）と（間の数）との関係に着目することが課題につながるため、完全なものにはしないようにする。図の観察から（間の数）は（木の数7本）－1で6と分かるが、どのような場合においても（間の数）＝（木の数）－1という式で求められることについてはさらにいくつかの場合を提示して示す必要があると考えられるので、まとめの段階でいくつか例を挙げて式で表せることにも気づかせたい。

7. 単元の指導計画・評価（全3時間）

次	時	目標	学習活動	評価規準
1	1	・順序数の問題を図をかいて解くことができる。	・問題を読んで題意をつかみ、順序数を、数図ブロックを操作したり、○図をかいたりして作業をしながら、問題を解決する。	・2つの位置関係を図に表すことができる。 [表] ・図をもとに数量関係を正しくとらえる。[考]
	2 本 時	・1列に並んだものの数とその間の数の関係を図をかいて考えることができる。	・問題を読んで題意をつかみ、挿し絵を見て線分図をかくなどして問題を解決する。	・木とその間の関係を図に表すことができる。 [表] ・木とその間の関係を理解して考える。[考]
	3	・既習事項の復習		